

# サイエンスカフェでのランチョンマット制作 —学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex 活動報告—

渡 邊 皓 子

〈京都大学大学院理学研究科 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町〉

e-mail: watanabe@kwasan.kyoto-u.ac.jp

2009年6月、名古屋市内に日本初の常設型サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイが開店した。サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイが提供しているサイエンス企画の一つに、オリジナルランチョンマット“Science Codex”がある。月変わりでサイエンスに関するコラムとイラストを掲載し、来店者に無料で配布されている。学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex は、2009年12月に結成され、京都大学大学院生と京都精華大学の学生を中心に Science Codex の制作を行っている。これまでに作成されたランチョンマットと、学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex の活動内容を紹介する。

## 1. サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイと、ランチョンマット“Science Codex”

2009年6月、名古屋市内に日本初の常設型サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイが開店した。店内には Science Cable と呼ばれる科学に関連したコンテンツを常時放映する大型モニターがあったり、Science Center というコーナーでは科学関連の書籍やグッズを販売していたりと、科学の香りで満ちた、それでいてオシャレで先鋭的な雰囲気がある。天文に関係することですと、店内にある Science Cinema は偏光メガネをかけて見る立体シアターで、国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトが開発した Mitaka (天文学のさまざまな観測データや理論的モデルを見るためのソフトウェア、参考 URL <http://4d2u.nao.ac.jp/html/program/mitaka/>) を平日でも希望に応じていつでも上映している。基本的に週1度のペースで、Science Café Communication と称した講演会が行われる。これまでに京都大学名誉教授の小山勝二さん(題: 見えない X 線で宇宙を観よう)や国立天文台

准教授の小久保英一郎さん(題: 星くずから地球へ)、放送大学教授の海部宣男さん(題: ガリレオ・ガリレイと望遠鏡と宇宙)など、その他にも多くの天文研究者が講演を行っている。(参考 URL <http://sciencecafe.jp/communication/>。過去のアーカイブは <http://sciencecafe.jp/communication/past/>)

サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイは株式会社ナノオプト・メディアが経営するイタリアンカフェ&ダイニングであり、色彩豊かなイタリア料理がランチョンマットの上に載せてサーブされる。このランチョンマットはサイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイのみで使われている、オリジナルのものである。サイエンスに関するコラムとイラストを掲載し、毎月変わるこのランチョンマットは、サイエンスカフェの目玉企画の一つである。サイエンス瓦版という意味で、“Science Codex”と呼ばれている。Science Codex は自由に持ち帰ることができ、店頭でも無料で配布されている。これから紹介する学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex は、京都精華大学と協力し Science Codex の制作にかかわる活動を行っている。

## 2. 「宇宙とアート」プロジェクトから 学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex へ

Science Codex の制作は、サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイの開店前に宇宙総合学研ユニット（以下宇宙ユニット）の特定助教（現特定講師）である磯部洋明さんに依頼された。磯部さんは、2008年に京都大学と京都精華大学との間に提携された連携協力協定に基づき、2009年初旬に京都精華大学がもつ教育研究資源を通じて、宇宙科学の最新成果の発信と、宇宙科学とアートの融合による新しい文化の創造を目指したプロジェクト「宇宙とアート」を立ち上げた。このプロジェクトの一環として、京都精華大学デザイン学科の学生が背景デザインとイラストを、京都大学の大学院生が原稿執筆を担当する、ランチョンマット“Science Codex”の制作を開始した。図1にあるもののうち、No. 1（2009年6月号）からNo. 7（2009年12月号）までは磯部さんが取りまとめ、編集を

行ったものである。Science Codex No. 7（2009年12月号）では私自身も原稿を書いている。

私はランチョンマットという形でサイエンスに興味のある一般の方にわかりやすく話題を提供するという企画に魅力を感じ、その制作に興味をもった。それまでの著者がほぼ全員大学院生ということもあり、学生だけの自主的な運営が可能ではないか、と発案した。2009年12月初旬から、それまでの著者を中心にメンバーを募り、12月下旬に学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex を結成した。このような経緯により、Science Codex No. 8（2010年1月号）からは、学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex による制作体制へと移行した。

学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex のメンバーは、代表である渡邊暁子と5名の部長の合計6名で構成される。宇宙部長に田村隆哉（宇宙物理学教室 M2）、化学部長に大野博久（統合生命科学専攻 D4）、生物部長に前田 亮（生物物理学専攻 M2）、地学部長に峰山 大（地球惑星専攻 M2）、物

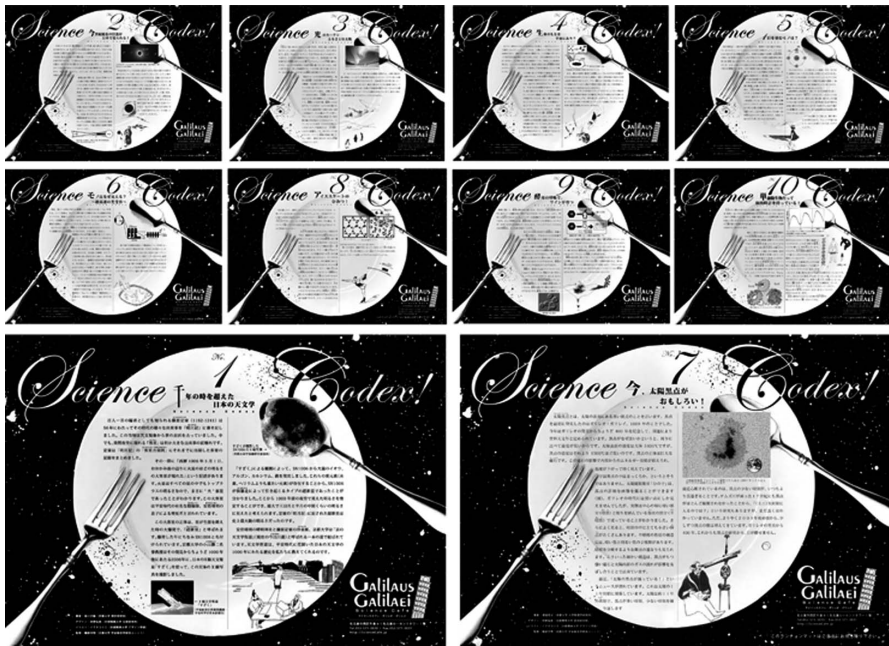


図1 2009年6月号 (No. 1) から2010年3月号 (No. 10) までの Science Codex. 実物は毎月違うカラーで印刷されている。著者とタイトルは表1を参照。



図2 2010年4月号. 毎年4月に背景デザインをリニューアルする. 著者は京都大学理学研究科生物科学専攻の桜井俊秀さん.

表1 過去の号の著者とタイトル. 著者は全員, 京都大学に所属.

2009年6月	信川正順 (宇宙線研究室)	千年の時を超えた日本の天文学
2009年7月	磯部洋明 (宇宙ユニット)	今世紀最長の日食が日本で見られる!
2009年8月	峰山 大 (地球惑星専攻)	光のカーテン ふるさとは太陽
2009年9月	大野博久 (生命科学研究科)	生命のものは宇宙にあり?
2009年10月	田村隆哉 (宇宙物理学教室)	1日を刻むモノは?
2009年11月	前田 亮 (生物科学専攻)	モノはなぜ見える? ~超高速の光受容~
2009年12月	渡邊皓子 (附属天文台)	今, 太陽黒点がおもしろい!
2010年1月	西島豪宏 (化学専攻)	アイススケートのひみつ
2010年2月	加畑倫子 (生命科学研究科)	酵母の呼吸で, ワインが育つ
2010年3月	黒澤俊介 (宇宙線研究室)	単細胞だって, 体内時計を持っている
2010年4月	桜井俊秀 (生物科学専攻)	ムゲンブチブチ

理部長に信川正順 (宇宙線研究室 D3) と, 全員が京都大学大学院の大学院生で, 表1を見ていただければわかるように全員が Science Codex 執筆の経験者である. 学生団体での運営のメリットはいくつもあるが, まずは広い分野から最新の研究話題を集めることができるということ, そして学生の立場にしながら外部の大学や会社と仕事することで社会的経験を積むということにあると思っている.

### 3. 学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex の仕事

私たちがどのような活動を行っているか, 具体的に紹介しよう. 一番の仕事は, 原稿を書いてくれる学生を捜すことである. 原稿完成までの過程は, 図3のフローチャートのようなになる.

公開している学生団体のホームページ上でも著者を募集している (<http://www.kusastro.kyoto-u>).

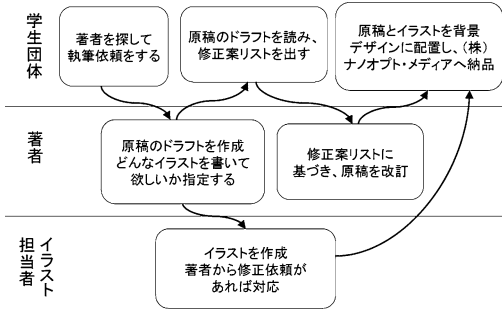


図 3

ac.jp/~watanabe/KyotoScienceCodex/index.html) が、これまでは口コミで執筆を依頼している。著者は原稿のドラフトとイラストの大まかなイメージを考え、学生団体へメールで寄稿する。われわれは原稿のドラフトを読み、中高生でも読めるレベルであるか、専門用語に十分な説明があるか、事実との相違がないか、研究者以外が読んでも面白い内容であるか、著作権に問題がないかなどを議論し、修正案リストを作る。著者は修正案リストに基づき、原稿を改訂する。イラストは京都精華大学の学生が作成し、必要に応じて著者とわれわれで修正依頼を出す。できあがった原稿とイラストは、京都精華大学の学生作成の背景デザインへ Adobe Illustrator を用いて配置し、最後に原稿にふりがなを振る。納期以内に仕上がった Illustrator ファイルを株式会社ナノオプト・メディアへ納品する。この一連のプロセスを約 1 カ月かけて行う。学生団体では各月号に対して最も分野の近い部長が担当編集者という形で議論のリードと

取りまとめを行うため、負担は上手く分散され、自分の研究への支障は最小限になっている。上記のプロセスはすべてメールとウェブサーバー上で可能なため、出張があっても支障にはならない(実際学生団体のメンバーが顔を合わせたのはこれまでたった 1 回)。現在は事務処理のかかわりで著者も学生団体メンバーも京都大学学生に限定しているが、今後は京大生以外にも募集を始める可能性がある。

名古屋に立ち寄る機会がある方は、是非サイエンスカフェ・ガリレオ・ガリレイを訪れてみて欲しい。名古屋駅から地下道ルーセントアベニューで直結している、名古屋ルーセントタワーの 1 階にある(参考 URL <http://sciencecafe.jp/access/>)。

最後に、Science Codex を最初に始めてその枠組みを築き、今でもアドバイザーをしていただいている宇宙総合学研究ユニットの磯部洋明さん、京都精華大学の学生さんを紹介していただき、運営に関しても大いに助けていただいた西川朋子さん、納期ギリギリになっても根気強く待ってくださる株式会社ナノオプト・メディアの方々をはじめ、学生団体 Kyoto ⇄ Science Codex のメンバー、京都精華大学のイラストレーターの方々(岸野裕美さん、イクタユリエさん、haruco さん)、原稿を書いてくださった方々に心から感謝します。また、いつも好き勝手にいろいろなことに手を出す私を温かく見守ってくださる指導教官の北井礼三郎先生にも深く感謝申し上げます。